

## 問 1

## 【解答例 1】

資料 1 は、科学技術の時代には、知識人の威信は必然的にイデオロギー装置として行使されるので、国策を擁護する役目を様々な方法で担うことは避けがたいという。批判的な分析から自分たちを守るために専門用語を使おうとすることが問題なのだ。アメリカの知識人が言語に絶する貧困、残虐な人権の抑圧をいかに改革できるのかという知的な問いを熱心に取り上げるなら、社会に計り知れない文明上の影響を及ぼすことができる。これに対して資料 2 は、植民地ナショナリズムの勃興にとり、現地の知識人が決定的役割を果たしたという。知識人が前衛的役割を果たすようになったのは、かれらの二重言語読み書き能力による。ヨーロッパ国家語を経由して近代西欧文化のモデルを手に入れることができたからだ。ある初期のジャワ・インドネシア国民主義者は、オランダ語を通じて、オランダの植民地支配イデオロギーの底にある人種主義的運命論そのものの土台を突き崩した。資料 3 も、知識人とは社会のなかで特殊な公的役割を担う個人であり、特定の職務をこなす有資格者階層には還元できないという。公衆に向けて、あるいはなりかわって、思想なり、姿勢なり、哲学なり、意見なりを表象＝代弁し肉付けし明晰に言語化できる能力に恵まれている。自由や公正に関して世俗権力や国家から適正なふるまいを要求できる権利をもち、ふるまいの規準が無視されるならば、断固抗議し、勇気をもって闘わねばならない。さらに資料 4 は、知識人は逆説的な存在であり、自律性か社会参加か、純粋文化か政治かという避けがたい二者択一を通して把握しない限り、知識人として考察できないという。実際、知識人はこの対立を乗り越えることで形成されてきたのだ。文化生産の世界の自律性を擁護するための真の知識人インターナショナルを建設することが今日の緊急課題とする。この理性のリアル・ポリティクスは普遍のコラボリズムに他ならないのである。

## 【解答例 2】

資料 1 では知識人の威信は必然的にイデオロギー装置として行使されることを指摘する。今日の「実用主義的な姿勢」も批判的に分析したり改革に奮闘することではなく、現状の権力分析とそこから生じる政治的現実を「容認」して、技術的かつ段階的な方法で「緩慢な改善策」を繰り返す立場でしかないアメリカの知識人を批判する。資料 2 では植民地ナショナリズムの勃興に現地の知識人が決定的な役割を果たしたことを指摘する。現地の知識人は二重の言語を使いこなすことで、近代西洋文化やナショナリズム、国民、国民国家モデルと手に入れることができた。それによって、植民地支配の矛盾を明らかにし、植民地の独立の萌芽を導いた。資料 3 では知識人とは特定の職務をこなす有資格者階層には還元できないとする。そして、知識人とは公衆に向けて、あるいは公衆になりかわって思想や意見などを表象し言語化できる個人であるとする。資料 4 は知識人の二面性を指摘する。知識人とは宗教的・政治的・経済的権力からは独立した知的世界によって固有の権威を受けられる存在であると同時に、固有の権威を政治的闘争に投入して初めて知識人として存在し存続することができる。それは二律背反ではなく、むしろみずからの自立性を様々な権力への自由な批判を増大させるために使うことで知識人は政治行動の有効性を増大させる。知識人の闘争はテクノクラートに対する批判と監視、提案を行うインターナショナルな集団闘争でなくてはならない。

資料 1 から資料 4 において知識人の役割とは社会の矛盾を告発し、人々に社会の改革を呼びかけ、共に行動する存在である。知識人は既存の権力などからは独立して知的世界の探求を行い、その権威を社会を改革するために使う。だが、多くの知識人はテクノクラートとして既存の秩序や権力に仕えることが多いと批判される。

## 【解答例 3】

資料 1～4 はそれぞれ、知識人の社会における役割やあるべき姿を論じている。資料 1 は、現代アメリカの知識人について論じ、格差や貧困、人権やモラルに関わる課題をとりあげ、社会を改革し、人々が連帯する可能性を問うべきだと述べる。資料 2 は、オランダの植民地支配下にあったインドネシアの知識人をとりあげる。かれらは語学能力を生かして近代西欧のナショナリズムを学び、それを基にオランダの人種主義を批判し、植民地ナショナリズムを勃興させるという役割を果たした。資料 3 は、知識人には「表象＝代弁」するという役割があると述べる。知識人は、社会の中で日頃忘れ去られ、厄介払いされている人びとや問題を公衆に向けて「表象＝代弁」すべきだ。自由や公正に関す

# 小論文

## 慶應義塾大学 総合政策学部 2/4

る適正なふるまいを権力や国家に求め、それが侵犯される場合は抗議することが期待される。資料4は、知識人に、権力に対する批判の自由を増大させ、政治行動の有効性を増大させる役割を期待する。そのために知識人は、集団を形成し、テクノクラートに対する批判と監視、提案を行う国際的な力として自己主張すべきだと述べている。

資料1、3、4では、あるべき姿から乖離した知識人への批判も書かれている。資料1は、科学技術時代において、専門知が権力の正当化と現状維持のために利用される中、知識人が「実用主義的な姿勢」に基づき批判的分析を放棄し、国家の政策を正当化することに加担していると批判される。資料3も、政府や企業に丸め込まれ、聴衆に迎合するだけの知識人を批判する。知識人は、時に聴衆と対立しても、自分の信じることを述べなければならないのだ。また、資料4では、知識人が純粋な芸術や科学、文学の探求だけを行い、全てから身を引いた特権的存在となることを批判的に論じる。知識人は、自律性と社会参加、純粋文化と政治の対立を乗り越える存在となるべきだからだ。

### 【問2】解答例1

資料5で、福澤諭吉は、当時の社会が激しくなる騒乱の中にあると述べている。この騒乱は日本国民が文明に進もうとして発奮しようとしていることであるとする。そして、福澤は西洋諸国が文明国だというのも今の世にてそう言えるというだけだとした上で、文明は人間の知性と徳性の進歩であると訴えかけている。

私は今の時代に顕在化している社会課題の中で排外主義を克服することが重要であると考えます。日本では急速な人口減少による深刻な労働力不足に直面していることや、また欧米と比べれば外国人が多くはないことから排外主義はそこまで顕著ではなかった。だが、最近、日本でも排外主義的勢力が勢いを得ている。外国人や彼らを優遇する政府のせいで日本人の生活が苦しくなっているのだと彼らは主張する。だが、エビデンスに基づいて考えれば、日本人の生活が苦しくなっているのは高齢化と、長期にわたる経済停滞のせいである。そして、労働力人口の減少にもかかわらず、移民を広く受け入れてこなかったために深刻な労働力不足に苦しんでいるのであり、移民受け入れは不可避だ。ただ、これまで模範とされてきた欧米の多文化社会も混迷を深めている。それゆえ、排外主義を克服し、日本モデルの多文化共生社会を創造すること、そのために必要な知性と徳性を日本人が持つことが重要な課題であると考えます。

### 【問3】解答例1

私は排外主義の問題について、多文化共生のための政策デザイン、社会イノベーションの促進と、言語文化といった観点から総合的にアプローチし、分野横断的な知識を実践に生かし、新たな価値創造に貢献できる社会の先導者になりたい。資料5で福澤諭吉が言うように、西洋はたまたま文明の手本だったにすぎず、その政策を参考にしながらも、失敗も踏まえ、日本の実情にあった多文化共生社会づくりを進めていく必要がある。それゆえ、洋の東西を問わずどのような多文化共生政策が取られてきたのかを政策デザインの観点から研究したい。また研究会では多文化共生社会づくりや排外主義という課題に関心を持つ他の先覚者との共同研究を通じて、見聞を広めたい。

多文化共生社会を作る上では、いまだ単一民族国家幻想が一部に残る日本社会を、多文化共生へと自らを変革していく必要がある。そのために NGO や NPO ボランティアといったアクターの役割にも注目をし、これらのアクターと行政の協力によって地域でどのような多言語社会を作っていくのかを探求したい。ごく一握りの知識人だけでなく、広範な市民が資料3の言う社会を変える勇気を持つことが欠かせないと考える。加えて、これらを行ううえでは、データサイエンスや、フィールド調査などの様々な手法を学ぶことによって、エビデンスに基づく政策作りに役立てたい。

### 【問2】解答例2

明治期の日本では西洋文明との出会いが人心の騒乱を引き起こした。福澤はそれを、西洋文明を手に入れ、自国の文明を進歩させようとする日本人の意欲の表れと捉える。福澤は文明を「人の身を安楽にして心を高尚にする」とも定義する。文明を進歩させるために、智者は古今の論説を学び、世界の事情を広く知り、未来を見通したうえで、物事の利害得失の軽重と是非を明らかにすべきと訴える。智者は世論から異端妄説と言われても、信ずるところを主張すべきだと述べる。私は AI 技術の

# 小論文

## 慶應義塾大学 総合政策学部 3/4

開発・導入の遅れを、日本の重要な社会課題と考える。文明の進歩のために西洋文明から学ぶ営みは今も続いている。アメリカで開発された生成 AI 技術は急激な進歩を遂げており、それを応用したエージェント AI、バーティカル AI、フィジカル AI の実用化が近い。これらが実用化されると、人間にしかできなかった仕事を機械が代替するようになる。日本も、自国のニーズに対応した多様な AI を開発し、導入する必要がある。現政権も、成長投資を行う重点戦略分野に AI を指定しているが、他の先進国と比べて研究・開発は遅れており、それを担う人材不足も深刻だ。不確実性を嫌い、旧来のシステムの維持を好む日本の組織文化が原因となり、官民とも AI の利活用が進まない。少子高齢化に伴う労働力不足に対応し、生産性を向上させ、イノベーションを創出するには、社会の理解を得ながら AI の実装を進めることが重要だ。

### 【問3】解答例2

私は、日本で AI 技術を導入する際の課題を分析し、必要な施策を提案できる「社会の先導者」になりたい。そのためにはセクショナリズムにとらわれず（資料6）、領域を横断する学びが必要だ。

生成 AI は自然言語を利用する。AI を社会で広く実装するには、日本語での利用が容易で、日本の課題に対応できるデータを学習した AI が必要だ。そのためには、総合政策学部の「言語・文化とコミュニケーション」分野の学びを通じ、日本語や日本におけるコミュニケーションの特徴を学び、これから進む多様な AI の開発に役立てたい。また、「政策デザイン」分野での学びを通じ、AI に関連する法制度の整備、研究開発投資や人材育成を促す政策のあり方を構想したい。AI 導入には、組織形態や働き方を AI に合わせて変えていく必要がある。「社会イノベーション」分野での学びを通じ、その方法を探求したい。AI 技術を導入するには、社会的合意が必要だ。AI による知的財産の不正利用や導入時に生じ得る倫理的課題を指摘する人、導入が労働者の解雇や格差の拡大に繋がることを懸念する人が多数いる。「社会の先導者」として、彼らの声に耳を傾け、対話を重ね、AI 導入時の課題を明らかにしたい。その上で、総合政策学部の学びで得た知見を基に、AI が全ての人の「身を安楽にし、心を高尚にする」（資料5）技術となる社会を構想し、提案できるようになりたい。

### 【問2】解答例3

ペリー来航以来、当時の日本は儒教や仏教の伝来に匹敵する人心騒乱を起こしていた。西洋文明を手に入れようと発憤した結果だ。ただ、文明の進歩はすべて異端や妄説から始まったのであり、西洋文明を当座の目的として、そこから物事の利害損失を論じなければならぬと福澤は主張する。

日本が模範としてきた西洋文明は、英米型に限られない。1980年代より英米型の新自由主義を標榜して、自己責任と自助努力を国民に求めてきたが、その結果、この社会にもたらされたものは「失われた30年」と呼ばれる悲惨な状況である。税と社会保障の一体改革はどこに埋没したのだろうか。先の総選挙の極端な結果を見るなら、福澤のいう「人間の知性と徳性の進歩」とはとても言えない。それにより何がもたらされるかを理解せず、減税を公約に横並びで掲げる政党を安楽に支持しているだけだ。変革を求めるのではなく、現状認識も不十分なままでその維持を求めるに過ぎない。

生産性の向上を至上命題として非正規雇用を急激に拡大させた結果、歳入と大企業の業績が改善しても、その恩恵が国民に還元されていない。所得格差が社会の中核を形成する中間層を解体し、社会全体を疲弊させている。これでは何のための経済成長か不明だ。時代錯誤の国威発揚が正統定説になり、逆に経世済民が今日の異端妄説と化している。税と社会保障の最適化を図るために必要な制度の再設計が重要課題である。

### 【問3】解答例3

今日の学問分野で唱えられていることは、各論では正しくとも総論としては間違っているのではないか。経済成長をもたらす政策は内容が正しくとも、一部の高額所得者をさらに富ませることを目的とするのであれば方向性を間違えている。大企業の中には創立以来最大の収益を上げているものもあり、「長者番付」の公表廃止により見えにくくなったが、日本でも億万長者が増加している。

高額所得者や大企業が社会の牽引役となり、人々に恩恵をもたらすという発想が古いのだ。他の先進国と比較して所得税の最高税率は低く、消費税も他の先進国と比較すればまだ低率であるにも拘わらず、先の総選挙では、各政党が軒並み消費税減税を政権公約に掲げるといふ異様な光景が展開され

# 小論文

## 慶應義塾大学 総合政策学部 4/4

た。多くの有権者もそれを支持したようだ。その一方で社会保障の充実に対する要望は強い。

私は大学で特にベーシックインカムに関して学びたい。日本社会に適合できるかどうかは懐疑的な意見も多いが、現政権が策定する定額給付付き税額控除では追いつかないほどの格差社会の惨状があるからだ。経済学や財政学だけでなく日本文化論なども踏まえながら、日本型のベーシックインカムを分野横断的かつ総合的に構想することでしか、経世済民は実現しないと考える。新自由主義という本流に逆行する「社会の先導者」として、政府や御用学者たちに異議申し立てが出来るような知識人を目指したいと考える。

### 【問2】解答例4

福澤は明治の文明開化を日本の転換期と捉え、西洋文明を取り入れた新たな文明を日本が築くときだと考えている。この変化の時代では従来の常識は通用せず、学者は異端妄説といわれることを恐れることなく、勇気をもって自分の思う所の説を吐くべきとする。例え、他人の説と自分の意見が合わなかったとしても、安易に相手の合わせることなく、将来意見が一致する時、「議論の本位を同じくする日」を待つべきと述べる。加えて、利害得失を論じるさいには、利害得失の軽重と是非を明らかにしなくてはならず、個人の利害で天下の利害を考えてはならず、一年間の便不便で百年の計画を誤ってはならない。日本の文明を進歩させようとするれば、ヨーロッパの文明を目的として議論の基準を定めて、そこから物事の利害得失を論じるべきである。文明とは「人間の知性と徳性の進歩」である。

現代もまた、VUCAと呼ばれる変動の時代であり、従来の常識が通用しなくなっている。私は現在の課題の中でもっとも重要なことは、失われた30年を経て日本が再び経済成長の軌道にのることだと考えている。統治の基本は人々の物質的な安楽を与えることである。物質的な豊かさを求めることを批判する脱成長などの意見も多いが、生活に困窮する人々が増えている現状を踏まえれば、まずは経済を成長させ、分配政策において貧困を解消することが喫緊の課題である。

### 【問3】解答例4

総合政策学とは資料6にあるように総合的な判断を行う術を研究する学問である。具体的には複数の分野を学ぶことで新しい問題解決の方法を切り拓くことである。そして認識科学を前提に、目的の実現に向けて仕組みのデザインをよりよく行う設計科学を志向する。そこでは、よりリアルな認識科学が求められ、フィールドワークといった定性的研究、データサイエンスや社会実験といった定量的研究、さらには両者を組み合わせた混合研究の方法を学ばねばならない。このような総合政策の学びと研究を糧として、私は日本の経済成長という課題を解決するために部分最適ではなく、全体最適を重視する。現政権の「責任ある積極財政」は目の前の課題への対処療法であり、経済成長のための具体的なビジョンもデータに基づく検証プロセスも明示されていない。政府もそれを支持する国民も総合的な判断を欠いている。原因のひとつが民主主義である。なぜなら民意は議論の本位に合わせて、利害損失の軽重や是非を吟味したものではないからだ。例えば、ブキャンは民主主義下の政府が有権者の利益誘導圧力によって慢性的な財政赤字に陥る傾向を批判した。そして現実にはブキャンの主張した通りになっている。知識人たるテクノクラートも政府や民意に迎合する傾向がある。熱狂を生みやすい時代だからこそ、知識人は客観的な実証データと学際的な知見を基に民意に流されず、総合的な判断へと人々を促すべきだ。